

よめの日 よめの時



プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
代表取締役

田島 秀二

プレジジョン・システムサイエンス株式会社
1985年に理化学機器の保守・メンテナンスを目的に設立。田島秀二氏が1989年に社長に就き、機器の製造・販売を始め、1995年DNA自動抽出装置の製品化に成功。東証ジャスタック上場。所在地・千葉県松戸市。

危機を好機に変えた技術

当社は医療用の検査機器、具体的にはDNA（デオキシリボ核酸）の自動抽出装置を主力に製造している開発型メーカーです。同装置は、病気の原因遺伝子を突き止める遺伝子検査（DNA検査）や警察による遺伝子鑑定などを行うための入り口に当たる、DNAを抽出するための装置。当社は独自の技術で、このDNA抽出を短時間で簡単に実施できる装置を製造しています。

もともと私は検査機器を扱う商社に勤めていたのですが、扱っている機器の保守・メンテナンスが必要になって今の会社を設立。最初は別の研究者が社長を務めていましたが、

体調を崩すなどで、1989年に私が商社を退職して後を継ぎ、社長になりました。

社長就任後は、アメリカの大手製薬メーカーと免疫検査装置の共同開発に取り組んでいましたが、1994年に転機が訪れます。この大手メーカーから突然、開発中止を告げられたのです。社運をかけてやっていたプロジェクトの中止で、負債だけが残り、会

社存亡の危機に立たされました。

これまで培ってきた技術でいかに生き残りを図るか。出した答えが、開発を進めていた、磁性体を利用するDNAの自動抽出装置でした。当時、そうした装置は実用化されておらず、可能性を信じるしかないと考えたのです。

1995年には独自のDNA抽出技術を日米欧の各国で特許出願。さらにまた試作品といったレベルの装置をアメリカの学会で展示したところ、たまたま居合わせたスイスの大手製薬メーカー役員が目にとまり、高く評価される幸運呼びました。同年、小型のDNA自動抽出装置の実用化にも成功。当社の技術に着目してくれたスイスメーカーをはじめ、国内外のメーカーとOEM（相手先ブランドによる生産契約を結ぶこと）に成功し、危機が一転して飛躍のチャンスに変わったのです。

この時に得た教訓が、いかに大手企業といえども、1社だけに頼って請負で仕事をするもののリスクでした。その教訓を糧にして、その後、当社は保有技術の特許をしっかりと確保し、また1社との独占契約は排して、現在も10を超える企業と契約しているほか、規模は小さいながらも独自製品の販売も行っています。

さらに、遺伝子検査が人だけじゃなく、動物や食品などへも広がりがつつある社会情勢を見据え、DNAの抽出にとどまらず、その増幅と解析までを行う全自動遺伝子解析装置の開発にも成功しました。小型で廉価なこの装置を今後の成長の柱にできればいいと考えています。



独自技術を駆使したDNAの抽出装置をさらに発展させた全自動遺伝子解析装置。同社のさらなる発展の起爆剤にと期待されている。